

# 皮膚科

## I プログラムの名称

慶應義塾大学病院 皮膚科初期臨床研修プログラム

## II プログラムの指導者

統括責任者

慶應義塾大学医学部皮膚科学教室

教室主任 高橋 勇人 准教授

研修医担当主任 齋藤昌孝 専任講師（学部内）

## III 皮膚科の概要・特徴・特色

プライマリ・ケア医の養成をミニマム・リクワイアメントとする。皮膚科初期研修を希望した研修医に対して、臨床経験7年以上の上級医の指導のもと研修する。将来皮膚科専門医を志すものは推奨プログラムを用意する。プログラムの指導者による運営会議にて研修プログラムの問題点の検討と研修医の評価を行う。

## IV 到達目標

厚生労働省による「臨床研修の到達目標」に準じる。

皮膚科初期臨床研修の中で、一般臨床医として知っておかなければならない基本的な皮膚疾患を経験し、正しい診断及び治療を行うことができるようにする。推奨コースをとるものは皮膚科医として必要な基本的な技術、知識、態度を習得する。

- (1) 患者・家族と医師との関係を正しく築くことができる。
- (2) 他の医療従事者も含めた医療チームの一員として業務を遂行できる。
- (3) 患者に対する的確な問診を行い、情報を収集し、問題点を抽出できる。
- (4) 医療現場において安全管理ができる。
- (5) カンファレンス（総合診断外来）において的確に症例を呈示できる。
- (6) 検査・治療の計画を立てることができる。
- (7) 医療保険制度、社会における医療の役割を理解し、医の倫理を尊重して診療にあたることができる。
- (8) カルテの記録、診断書・紹介状などの作成、管理ができる。

## V 研修方略

- (1) 基本的な診察法
  - ・ 皮疹を視診・触診により正しく観察し、記載することができる。
  - ・ 皮膚外傷を正しく評価することができる。
  - ・ 熱傷を正しく評価することができる。
  - ・ 湿疹と蕁麻疹を正しく診断することができる。
  - ・ 薬疹に対する正しい知識を持ち、鑑別すべき疾患を除外することができる。
  - ・ 色素性母斑と悪性黒色腫の基本的な鑑別ができる。
  - ・ 皮膚腫瘍の中から悪性腫瘍の疑いがあるものを抽出できる。
  - ・ 紅斑と紫斑の区別をすることができる。

- ・ 伝染性皮膚疾患の取り扱い及び注意点を把握し、適切に対応できる。
  - ・ 性感染症を正しく鑑別し、血清学的診断を正しくできる。
- (2) 以下の項目について自分で検査ができる。
- ・ 皮膚糸状菌検査（鏡検法）
  - ・ 創培養
  - ・ 血液培養
  - ・ ダーモスコピー
- (3) 以下の基本的治療行為を自らできる。
- ・ 静脈注射
  - ・ 採血
  - ・ 外用療法（単純塗布、重層法、密封法）
  - ・ 創部処置法（ドレッシングおよびデブリードマン）
  - ・ 液体窒素療法
  - ・ 皮膚縫合
  - ・ 皮膚生検術
  - ・ 皮膚切開排膿法
  - ・ 光線療法
  - ・ 抗生剤の投与
  - ・ 内服薬の処方とそれに伴う患者指導
  - ・ 食事・生活指導
- (4) 経験すべき疾患
- 1) 湿疹・皮膚炎（急性，慢性，接触性）
  - 2) アトピー性皮膚炎
  - 3) 蕁麻疹（急性，慢性）
  - 4) 足，爪，体部白癬（糸状菌鏡検による検査を含む）
  - 5) 毛囊炎，尋常性ざ瘡
  - 6) 尋常性疣贅
  - 7) 帯状疱疹
  - 8) 尋常性乾癬
  - 9) 急性発疹症（麻疹，風疹，伝染性紅斑，水痘，手足口病など）
  - 10) 薬疹，中毒疹
  - 11) 皮膚良性腫瘍（色素性母斑，脂漏性角化症，粉瘤など）
  - 12) 皮膚悪性腫瘍（有棘細胞癌・基底細胞癌，リンパ腫など）
  - 13) 自己免疫性皮膚疾患（天疱瘡，類天疱瘡）
  - 14) 膠原病（SLE，皮膚筋炎，強皮症，シェーグレン症候群など）
  - 15) 褥瘡
  - 16) 下腿潰瘍
  - 17) 蜂窩織炎
  - 18) 伝染性膿痂疹
  - 19) 熱傷
- (5) 研修スケジュール

原則として外来中心の研修を行うが、状況（研修期間が2ヶ月以上に及ぶなど）に応じて病棟研修も取り入れる。

○外来研修

曜日	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
月		外来						特殊外来または皮膚生検		
火	病棟カンファレンス	外来						総合診断外来		(抄読会)
水		外来						特殊外来または外来手術		
木		外来						特殊外来または外来手術		(病理勉強会)
金		外来						特殊外来または皮膚生検		
土		外来						特殊外来		

提出物：総合診断外来担当症例記事のコピーを研修医担当主任に提出

○病棟研修

曜日	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
月		病棟						病棟（手術）		
火	病棟カンファレンス	病棟（回診）						総合診断外来		(抄読会)
水		病棟						病棟（手術）		
木		病棟						病棟（手術）		(病理勉強会)
金		病棟・カンファレンス						病棟（手術）		
土		病棟								

提出物：担当症例の退院サマリーのコピーを研修医担当主任に提出

VI 研修評価

オンライン臨床教育評価システム (EPOC2: <https://epoc2.umin.ac.jp/epoc2.html>) にて、評価票 I II III の研修医評価、指導医評価、メディカルスタッフ評価を実施する。経験すべき症候/疾病・病態を当診療科にて経験した場合は、病歴要約の提出を確認し、EPOC2 にて承認を行う。2年間の研修修了時には、評価票 I II III の各評価がレベル 3 に到達するよう指導を行う。